

令和元年度魚病診断結果について

病害対策研究

谷本 剛・湯浅明彦

水産研究課では魚介類の感染症の発生やまん延を防止するため、魚病発生の監視や養殖魚の衛生管理の指導を行っている。

ここでは、平成31年4月から令和2年3月の期間に当課において魚病診断を実施した結果について報告する。なお、魚病診断の対象には、養殖魚以外に種苗生産魚及び観賞魚も含まれている。

魚病診断結果

淡水魚の魚病診断結果を表1に示した。

淡水魚の診断件数は、アマゴ1件・アユ18件・ウナギ12件・オヤニラミ3件・キンギョ1件の合計35件であった。診断件数は前年度に比べ25件減少した。

アマゴでは、毎年診断件数が最多であったせつそう病の診断がなかった。

アユでは、診断件数が18件となり、診断件数はここ数年減少傾向にある。4月、5月に異形細胞性鰓病が発生した。病魚は肝臓のうっ血が見られたが、鰓の腫脹や出血点といった異形細胞性鰓病の症状が見られない個体も多く見られた。対策として餌止めを実施したところ、死亡数は大幅に減少した。なお、今年度は細菌性の鰓病の診断はなかった。1月に漁協のアユ種苗中間育成施設において冷水病が発生した。感染経路として種苗を移送するトラック内での感染が疑われた。3月に体表の点状発赤、肛門付近の発赤、出血性の腹水貯留などの症状が見られる死亡事例があった。病魚の脾臓、腎臓のスタンブ標本を観察するとグラム陰性の長桿菌が多数確認され、また両臓器からTSA培地で単一の淡黄色コロニーの細菌が分離されたことから、死因は細菌感染症が示唆されたが、正確な菌種の同定には至らなかった。

ウナギでは、診断件数が12件で前年度に比べ9件減少した。パラコロ病の診断件数が最も多く、シラスウナギから成鰻まで魚体の大きさに関係なく発病が見られた。5月に池入れしたシラスウナギがほぼ全滅する事例があった。死亡魚は外観所見及び解剖所見において特に異常は認められず、細菌培養検査及び顕微鏡観察において病原体（細菌、寄生虫）は確認されなかった。また、水質検査においても特に異常は認められなかった。別の養鰻業者が池入れした同じロットのシラスウナギでは、このような斃死が見られ

なかったことから、種苗の健苗性に問題があった可能性も低く、死因は特定できなかった。

キンギョでは、金魚販売店で飼育していた種苗生産用の親魚が酸素欠乏症により大量斃死する事例があった。

海水魚の魚病診断結果を表2に示した。

海水魚の診断件数は、キジハタ6件・コロダイ1件・ブリ4件・マアジ1件・アワビ4件・イセエビ1件の合計17件であった。診断件数は前年度に比べ7件増加した。

キジハタでは、10月に県外から導入し研究用として飼育していた天然魚において、12月から斃死が継続する事例が確認された。病魚は摂餌不良により痩せているものが多く、12月は体表にハダムシ、1月、2月は鰓にラメロディスカス及びアミルウーゼニウムの大量寄生が確認されたことから、死因はこれら寄生虫と冬期の水温低下に伴うストレスなどの複合的な要因が影響していると推測された。なお、斃死が継続し、一部水槽では全滅したことから、ウイルス性神経壊死症(VNN)の検査も実施したが全て陰性であった。

コロダイでは、飲食店から魚体内の異物（寄生虫）についての問い合わせがあり、形態等からディディモズーン科吸虫と推定した。

ブリでは、8月に2、3年魚で細菌性溶血性黄疸が発症し、死亡の多い生簀では日間死亡率が5%に達したが、アンピシリンの投薬により概ね終息した。

アワビでは、種苗生産施設で飼育中のクロ及びメガイアワビ種苗（殻長20mm）で、夏から秋にかけての高水温期に慢性的な死亡が続いた。罹病魚は外観に異常はないが、身痩せしている個体が多く、血リンパ液からTCBS培地でビブリオ属細菌が選択的に分離されたことから、死因はビブリオ属細菌による感染症と推定した。

イセエビでは、降水の急激な流入により、漁協の畜養生簀のくみ上げ海水に淡水が混じり、低塩分障害で大量斃死する事例があった。

表1. 淡水魚の魚病診断結果

魚種名	魚病名	魚病診断件数												計	
		H31		R1						R2					
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
アマゴ	健康診断												1		1
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
アユ	冷水病		1					1				1	1		4
	細菌感染症													2	2
	異型細胞性鰓病	2	1												3
	真菌症													1	1
	不明	1													1
	健康診断(保菌検査含む)	3	2						1				1		7
	小計	6	4	0	0	0	1	1	0	0	1	2	3		18
ウナギ	パラコロ病	1			1				1		1	2			6
	シュードダクテロギルス症				1										1
	酸素欠乏症											1			1
	不明		2												2
	健康診断		1	1											2
	小計	1	3	1	2	0	0	1	0	0	1	3	0		12
オヤニラミ	不明							1	1		1				3
	小計	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0		3
キンギョ	酸素欠乏症										1				1
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0		1
合 計		7	7	1	2	0	1	3	1	0	4	6	3		35

表2. 海水魚の魚病診断結果

魚種名	魚病名	魚病診断件数												計	
		H31		R1						R2					
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
キジハタ	ハダムシ症										1				1
	ラメロディスカス症・ アミルウージニウム症											1	1		2
	VNN診断(陰性)											3			3
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	1	0	6
コロダイ	寄生虫(ディディモゾーン科吸虫)				1										1
	小計	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ブリ	細菌性溶血性黄疸					1									1
	連鎖球菌症(α II型)							1							1
	ハダムシ症							1			1				2
	小計	0	0	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	4
マアジ	細菌感染症								1						1
	小計	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
アワビ (クロ・メガイ)	ビブリオ病							2	1		1				4
	小計	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	4
イセエビ	低塩分障害								1						1
	小計	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
合 計		0	0	0	1	1	4	3	0	3	4	1	0		17